

# 令和元年度 みくま 事業実績報告書

## 1 総括

平成25年の開設以降、就労継続支援A型事業所として利用者への最低賃金の保障と施設の黒字経営を両立させてきたが、29年度後半より利用者の減少に伴い給付費が減額し、施設経営が赤字となり経営危機に直面することとなった。平成30年度は利用者を増やすことで経営基盤の強化を図り施設経営は黒字に転換したものの、増加した利用者の工賃支払いが影響し就労支援事業会計は赤字収支となった。令和元年度は施設経営と就労支援事業の両立とそれを行うための人材育成が最重要課題となった。

今年度、30年度末に作成した作業収益の増収計画が功を奏し、就労支援事業会計については大幅に改善され黒字収支に転換することができた。また利用者数も目標数には達しなかったが、職員不足による人件費の抑制により、施設会計もなんとか黒字収支を維持できた。前年度に比べると経営状態は改善されており、成果のあった1年であったといえる。しかし、様々な課題に対しての対策の実施については法人の指摘により行うことが多く、人材育成という点ではその主体性や行動力において課題が多く残る結果となった。

求められる作業水準が高いこともあり、就労継続A型への利用希望はあまり多くなく、一般就労等で退所となった利用者の補充が簡単ではない。また、最低賃金も毎年上がっていく情勢から、作業収益も年々増加させなければならない。施設の経営安定と就労会計の黒字維持の両面について今後も厳しい状況が想定される。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みくま
- 2) 事業種別 就労継続支援A型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-12
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 17名
- 6) 利用現員 16名(令和2年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成 14年 11月12日
- 8) 事業開始年月日 平成 25年 1月 1日
- 9) 職員 7名(令和2年3月31日現在)

管理者	1名	(兼務：常勤換算1.0)
サービス管理責任者	1名	(常勤換算1.0)
職業指導員	2名	(常勤換算1.8)
生活支援員	4名	(常勤換算1.6)

## 3 基本理念

一人ひとりの自己実現  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 就労支援 弁当製造の業務を中心として「みくま」の従業員として能力が発揮できるように、利用者の作業能力や体調等に合わせて作業配分を行う。また、一般企業で働く為のステップアップとして、就労に向けた相談や就労活動に関して支援する。
- 2) 生活支援 利用者が安心、安定した生活ができる支援を行う。特に一般企業へのステップアップを希望している利用者に対しては、生活面等の課題を把握し就労に向けた生活全般の支援を関係機関と連携しながら行う。

## 5 実施事業(活動内容)

- 1) 就労支援
  - (1) 弁当製造・販売
  - (2) 清掃及び受注事業

## 2) 行事

### (1) バスハイク (年1回実施)

## 6 日 課

開所・作業	7:30~12:10
昼礼	12:10~12:30
休憩	12:30~13:30
作業	13:30~17:30
記録・打ち合わせ	17:30~

## 7 重点課題・目標

### 1) 活動

(1) 事業安定化のための取り組みを実施する。(目標到達時期:平成32年3月末)

#### ① 専任管理者の育成

- ア. 管理業務の年間の流れに従い計画的に業務を行う。
- イ. 課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。
- ウ. 課題解決に対する実行力を高め、方針に基づいた事業の実施を徹底する。
- エ. 業務全般において多角的な視点による適切な判断基準を身につける。
- オ. 全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を身につける。

#### 【成果と課題】

平成29年度から専任管理者の育成に取り組んでおり、業務全般における中心的役割を担っている。全般的にスキルの向上が見られているが、計画的に業務を遂行することや、経営的な視野をもって、課題や改善策を抽出し、迅速に実行することが不十分であった。その結果、課題への対策が後追いにならざるを得ず、法人の指導やチェックが日常的に必要な状態となった。

#### ② 利用者数の確保

- ア. 30年度に作成した関係機関訪問及び電話連絡年間計画表をもとに、ワークセンター夢の樹移行、定着支援、baumと連携し近隣の特別支援学校、就労支援センター、ハローワーク、特定相談支援事業等へ利用者募集を行う。
- イ. 法人機関紙およびホームページへの掲載、チラシの配布、ポスター掲示などの広報活動を行う。

#### 《利用者数増加目標数》

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
平成30年度実績	10名	5名	10.9名
令和元年目標	11名	8名	13.4名
増員目標人数	1名	3名	2.5名

- ※ 雇用契約者増員分は週5日利用
- ※ 利用契約者増員分は3名とも週4日以上利用
- ※ 増員は5月末までに実施が必要

#### 《利用者数増加による訓練等給付費収入及び当期資金収支差額目標額》

	訓練等給付費収入	サービス推進費	当期資金収支差額
平成30年度実績	1,700万円	330万円	30万円
令和元年目標	2,190万円	390万円	40万円
増額	490万円	60万円	10万円

#### 【成果と課題】

##### 《利用者数実績》

◆前年度比◆	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
平成30年度実績	10名	5名	10.9名
令和元年度実績	11名	5名	12.0名
増減	1名増	増減なし	1.1名増

◆目標との比較◆	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和元年度目標	11名	8名	13.4名
令和元年度実績	11名	5名	12.0名
増減	増減なし	3名不足	1.4名不足

### (見学者・実習者実績)

紹介先	見学者	実習者	採用
ほっと	7名	6名	3名 (利用契約。内1名は、途中から雇用契約に切り替え)
相談支援センター	8名	4名	0名
ハローワーク	6名	1名	0名
市役所	3名	0名	0名
紹介者無し	2名	0名	0名
病院	1名	0名	0名
	27名	11名	3名

### 《利用者数増加による訓練等給付費収入及び施設会計の当期資金収支差額目標額》

(施設会計)

◆前年度比◆	訓練等給付費収入	サービス推進費	当期資金収支差額
平成30年度実績	1,710万円	438万円	118万円
令和元年度実績	2,000万円	499万円	20万円
増額	290万円	61万円	△98万円

(施設会計)

◆目標との比較◆	訓練等給付費収入	サービス推進費	当期資金収支差額
令和元年度目標	2,190万円	390万円	40万円
令和元年度実績	2,000万円	499万円	20万円
増額	△190万円	109万円	△20万円

関係機関への訪問及び電話連絡、ハローワーク及び法人のHPへの掲載、チラシの配布等の広報活動を行った。就労支援センターからの紹介で3名(内1名雇用契約、2名利用契約)が利用を開始したが、通所が不安定となった2名の利用契約者が退所したことから、今年度の1日平均利用者数は、目標より1.4名不足の12.0名となった。令和元年度の施設会計の当期資金収支差額は、前年度比98万円減の20万円となった。コロナウィルス流行による利用実績の減少はなく訓練等給付費の減少等の影響はなかった。

### ③ 就労支援事業の強化

#### ア. 収益増加

- ・ 弁当配達ルートに沿って、会社等へチラシを配布し新規に顧客を増やす。
- ・ 法人内利用者、関係者、近隣等へ弁当のチラシを継続的に配布する。
- ・ おにぎりセット等弁当の委託販売先を増やすための営業活動(電話・チラシ配布)を行う。
- ・ 委託販売先の希望を聴取しサイドメニュー等の新メニューを開発する。
- ・ 新規販路開拓による1日販売個数の増加、おにぎりセットの販売、店頭販売、価格改定(430円→450円)を実施する。

	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	年間売上
平成30年度実績	180個	5個	1,960万円
令和元年度目標	190個	10個	2,150万円
増加分	10個	5個	190万円
(増加分内訳)	売上個数増加	60万円	
	弁当価格改定	95万円	
	おにぎりセット販売	35万円	

【成果と課題】

◆前年度比◆	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	(弁当事業) 年間売上
平成30年度実績	180個	5個	1,960万円
令和元年度実績	198個	5個	2,282万円
前年度との比較	18個	増減なし	322万円

◆目標との比較◆	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	(弁当事業) 年間売上
令和元年度目標	190個	10個	2,150万円
令和元年度実績	198個	5個	2,282万円
目標との比較	8個	△5個	132万円

4月から弁当の価格を20円値上げしたが、販売個数への影響は見られなかった。一日平均販売個数は、前年度比18個増の198個となり、目標数190個を8個上回った。おにぎりセットの販売数は、前年度と変更はなかったが、顧客からの紹介により、新規の顧客が約18件増加したことや、価格の改定が影響し、年間売上目標2,150万円に対して2,282万円となり、計画を132万円上回ることができた。しかし、配達能力は限界に近づいてきており、今後は、まとまった数を配達できる会社等の開拓や委託販売の開拓が必要である。

イ. 新規受託作業の実施

法人内事業所の清掃受託作業を増加すると共に、アンサースタジオアニメーション原画作成作業及び緑化推進作業を実施する。

《年間収益》

	清掃受託	緑化推進作業	アンサースタジオ	その他	合計
平成30年度実績	310万円	0円	15万円	20万	345万
令和元年度目標	440万円	120万円	60万円	30万	650万
増加分	130万円	120万円	45万円	10万	305万

【成果と課題】

《年間収益》

◆前年度比◆	清掃受託	緑化推進作業	アンサースタジオ	その他	合計
平成30年度実績	310万円	0円	15万円	20万円	345万
令和元年度実績	448万円	120万円	5万円	28万円	601万
差額	138万円	120万円	△10万円	8万円	305万

◆目標との比較◆	清掃受託	緑化推進作業	アンサースタジオ	その他	合計
令和元年度目標	440万円	120万円	60万円	30万円	650万
令和元年度実績	448万円	120万円	5万円	28万円	601万
差額	8万円	0円	△55万円	△2万円	△49万

法人内事業所清掃受託作業は、30年度末より3事業所の清掃を受託し、順調に作業を継続することができた。今年度より、緑化推進事業を開始し、ワークセンター夢の樹及びバウムと連携をとりながら、週2回花壇の手入れや事業全体の管理を実施した。年度前半は、管理が行き届かず、草花の一部を枯らしてしまうことがあったが、下半期に改善し、花壇の美化を維持できた。また、アンサースタジオアニメーション原画作成作業（月額5万円）については、受注先の方針変更により4月末で受託が終了したが、この減額分を補填する新規受託作業は確保できず、目標の年間650万円を49万円下回る結果となった。

ウ. コスト削減

・利用契約者時給単価の引き下げ

利用契約者の時給単価を450円から400円に引き下げ、利用者数の増加による利用者工賃支出の増加を抑制する。

《利用契約者の年間工賃支払額》

平成30年度実績	140万円
令和元年度目標	265万円
支出増額分	125万円

【成果と課題】

利用契約者の工賃支出は、年間で約180万円となった。利用者数が目標に達しなかったことにより年間の支出を見込みより85万円抑えることができた。

エ. 年間収支目標

【就労支援事業年間収支】

	収入	支出	収支差額
平成30年度実績	2,340万円	2,435万円	△95万円
令和元年度目標	2,800万円	2,700万円	100万円
差額	460万円	270万円	190万円

【成果と課題】

《年間収益実績》

◆前年度比◆	収入	支出	収支差額
平成30年度実績	2,340万円	2,435万円	△95万円
令和元年度実績	2,895万円	2,685万円	210万円
差額	555万円	250万円	305万円

◆目標との比較◆	収入	支出	収支差額
令和元年度目標	2,800万円	2,700万円	100万円
令和元年度実績	2,895万円	2,685万円	211万円
差額	95万円	△16万円	111万円

収入、収支差額も前年度実績と目標を上回る結果となった。

(2) 弁当製造事業の充実

内容充実のため、以下の取り組みを実施する。

- ① 衛生管理の徹底 — マニュアルを遵守するとともに、異物混入防止を徹底する。
- ② メニューの多様化 — メインメニューおよび副菜の種類を増加する。
- ③ 弁当内容の充実 — 盛り付け方法および彩りを工夫し、購買意欲を促進する。

【成果と課題】

- ① 8月に弁当1個に髪の毛のようなものが混入する事案と、9月に調理器具の部品の一部が弁当に混入する事案が発生した。(前年度混入事故は0件) 髪の毛のようなものの混入については、マニュアルの再確認に加え、弁当箱のふたを閉める直前の確認方法やそれを実施する人選を再度検討し、未然に防ぐ方法を周知徹底した。また、調理器具の部品

の一部の混入については、調理器具を変更することで、再発を防止した。

- ② 新規メニューを10種類、副菜を11種類取り入れ販売した。
- ③ トッピングの工夫、カラーカップや仕切りを活用し、彩りを良くする工夫を継続している。また、食材の納入業者に相談し、安価で彩りの良い食材の仕入れが行えるように努めた。既存顧客から定期的に彩りの良さの評価をいただき、購買意欲の促進につながる効果があったと考えている。

### (3) 就労支援の充実

利用者の状況を把握し、みくまで安心して働くことができるように支援を行う。また、一般就労を希望する利用者には、作業を通して、業務の正確性や他者とのコミュニケーション能力が向上できるよう支援を行う。

- ① 個別面談を実施し、個別支援計画の作成、評価、見直しを徹底し、心情面や作業面等様々な視点をもとに利用者の状況を把握し一貫した支援を継続的に行う。
- ② 一般就労を目指す利用者には、希望する職種や働き方など具体的なイメージが持てるように、就労支援センターと連携し、就職活動の支援を行う。

### 【成果と課題】

- ① 全利用者と個別面談を実施し、作業目標の到達度の確認を行うと共に、生活上の相談支援を行った。年度前半は面談内容等の職員間の共有が不十分であったが、後半には徐々に改善し、概ね支援方針の統一が図られるようになってきた。この結果、年度途中で、通所が不安定となった2名が退所したが、残りの16名については、通所の安定化につながった。また、継続により全体的に作業技術の向上がみられ、5月に利用契約で就業を開始した1名が11月から雇用契約に変更を行った。
- ② 一般就労を目指す利用者2名については、コミュニケーション能力の向上や心身の安定を図る段階にあり、具体的な就職活動までには至っていない。

## 2) 人材育成

### (1) 主任（副施設長）

※上記1) (1) ①に記載。

### (2) 全職員

- ① 事業方針を把握した上、事業計画に従い業務に携わる。
- ② ケース記録等情報共有に必要な記録内容のスキルを向上し、個別支援計画に沿った支援を行う。
- ③ 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルを向上する。

### 【成果と課題】

日々の業務に追われた感があり、経営の安定化については事業方針や事業計画に沿った業務となっているか等の検証が不十分であった。一方、利用者支援においては、日々の関わりの中で、利用者の特性に応じた作業支援や、生活支援を行っており、支援計画を意識した支援についても概ね実施できた。また、前年度課題となった支援経過の丁寧な記録については、やや改善がみられた。

## 3) 経営管理

- (1) 毎月、月次試算報告を行い、財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図ると共に、年度の収支予測を丁寧に行い、黒字収支に向けた目標を随時確認、または必要に応じて変更する。

### 【成果と課題】

職員会議で経営分析の結果を報告し、各職員の理解を進めた。しかし、課題の発見、その対策などを検討し、事業所主体で自発的に行動することは出来なかった。

## 8 開所状況

1) 開所期間 自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間  
平成31年4月1日～令和2年3月31日  
午前7時30分～午後17時30分  
(3) 年間延開所日数 243日間  
(4) 平均活動時間 5時間

## 9 利用状況

- 1) 利用者延人員 2,910名  
2) 1日平均利用人員 12.0名  
3) 年間実習人員 11名  
4) 就労者延人数 0名  
5) 私事都合退所者延人数 2名

## 10 利用者状況（令和2年3月31日現在）

### 1) 年齢

- 20歳未満 0名  
20歳以上30歳未満 3名  
30歳以上40歳未満 7名  
40歳以上50歳未満 5名  
50歳以上60歳未満 0名  
60歳以上70歳未満 1名

### 2) 障害の状況

- 愛の手帳4度 5名  
愛の手帳3度 1名  
精神保健福祉手帳3級 6名  
精神保健福祉手帳2級 3名  
身体障害者手帳3級 1名

### 3) 通所手段

- 交通機関利用 6名 徒歩等利用 10名

### 4) 居住状況

- 管内居住 8名 管外居住 8名

### 5) 性別

- 男性 9名 女性 7名

## 11 利用者工賃

### 1) 雇用者－平均工賃

月額： 90,146円

時給： 999円

(参考) 東京都最低賃金

平成31年4月～令和元年9月 985円

令和元年10月～令和2年3月 1,013円

### 2) 利用者－平均工賃

月額： 22,813円

時給： 400円

## 12 環境の整備

施設内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

## 13 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。